

富山経済同友会

会報

2024. 11月
No. 321



ベルリンのブランデンブルク門にて（第42回海外経済視察）

CONTENTS

- 第42回海外経済視察 2
- 10月会員定例会 5
- 【講演録】10月会員定例会：畠山 健介 氏 … 5
- 第4回企画委員会・第6回委員長連絡会議…11
- 第6回アスリート支援小委員会11
- 第5回地域創生委員会（大阪視察）………12
- 第8回文化・スポーツ委員会（県内視察）…14
- スケッチオー디션（人財活躍委員会）…15
- 同友会の日 カターレ富山応援………17
- 課外授業講師派遣17
- 第87回あけぼの会ゴルフコンペ18
- トピックス（産学交流会）………18
- リレーエッセイ⑫（雄谷 秀次 氏）………19
- 活動報告20
- 会員の入退会21
- 慶事のお知らせ23
- 今後の予定23
- わが青春の1枚（福島 鉄雄 氏）………24

第42回海外経済視察 ～ドイツ連邦共和国～

産業のDXやスタートアップ、GX、賑わいあるまちづくりの先進地に学ぶ

(令和6年9月8日～9月16日)

第42回海外経済視察（麦野英順団長）は、9月8日(日)～9月16日(月)の日程で、総勢25名が参加し、ドイツ連邦共和国を訪問。ベルリン・ミュンヘンを軸に、ドレスデン・シュトゥットガルトを加えた4都市を巡り、視察を行った。

ベルリンでは、「在ドイツ日本国大使館」「ジェットロ・ベルリン事務所」より現地の政治・経済・社会情勢について説明を受けるとともに、モビリティ特化型エコシステムを運営する「ドライブリー社」を訪問し、欧州随一のスタートアップ拠点の活気を体感した。また、複合文化施設「フンボルト・フォーラム」にて、同施設の背景について説明を受けた後、日独文化交流の場である「忘機庵－ゆらぎの茶室」を見学した。

ドレスデンでは、フォルクスワーゲン社のEV生産拠点である通称「ガラスの工場」を見学するとともに、同社が市と提携し進める充電インフラ整備等の環境先進都市におけるGXに向けた取組みについて学んだ。また、足を延ばしたマイセンでは、国立マイセン磁器製作所にてドイツの伝統的ものづくりに触れた。

シュトゥットガルトでは、メルセデス・ベンツ博物館を訪れ、ドイツの主力産業の一つである自動車製造業の歴史を辿った後、フラウンホーファーIPA(生産技術・オートメーション研究所)にて、日独中小企業の架け橋として技術開発支援や人材育成等を行う同研究所の取組みについてレクチャーを受け、研究所内部の見学を行い、ものづくり産業のDX等について知見を深めた。

ミュンヘンでは、まず、運転開始に向け建設が進むゲーレッツリート地熱発電プロジェクトサイトを訪問し、カーボンニュートラル実現に向けた革新的事業を現地で体感。その後、ミュンヘン工科大学にて、同大学が様々な研究機関や企業と提携のうえ進めている戦略的研究およびスタートアップ支援の取組みについて説明を受けた。



ベルリン市内を一望できるフンボルト・フォーラムの屋上で



ミュンヘン旧市街中心部にあるマリエン広場にて

参加者 (25名 敬称略)

団 長	麦野 英順	(株)北陸銀行 特別顧問	太田 俊也	三井物産(株) 北陸支社長
副 団 長	牧田 和樹	(株) MGG 取締役社長	須田 直樹	全日本空輸(株) 富山支店長
	松田 光司	北陸電力(株) 取締役社長	栃谷 義隆	(株)ヤングドライ 代表取締役
	中沖 雄	(株)富山銀行 取締役頭取	山崎 良人	(株)JTB 富山支店長
	伊東潤一郎	アイティオ(株) 取締役社長	滑川 哲宏	富山県 知事政策局次長
	浅野 雅史	(株)パロン 代表取締役	麦野彩予子	麦野英順 令夫人
	島田 好美	(株)島田商店 会長	牧田 鈴子	牧田和樹 令夫人
	久郷 慎治	(株)久郷一樹園 代表取締役	中沖 祥子	中沖 雄 令夫人
	稲田 裕彦	救急薬品工業(株) 代表取締役	稲田 千賀	稲田裕彦 令夫人
	川合 紀子	(有)ステップアップ 代表取締役	相馬 理香	相馬淳一 令夫人
	相馬 淳一	トーワードローンサービス(株) 代表取締役	上田 順子	富山経済同友会 事務局長
	飯倉 清博	(株)やぶうち商会 取締役社長	若島 啓子	富山経済同友会 事務局次長
	上垣 雅裕	丸紅(株) 北陸支店長		

日次	月日	都市名	日 程
1	9月8日(日)	富山～ベルリン	(富山～羽田～フランクフルト～ベルリン)
2	9月9日(月)	ベルリン	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェトロ・ベルリン事務所 プリーフィング ・クロスビー社 レクチャー ・ドライブリー社 見学 ・在ドイツ日本国大使館 プリーフィング ・フンボルト・フォーラム レクチャー／見学、 忘機庵－ゆらぎの茶室 見学 @ドライブリー社
3	9月10日(火)	ドレスデン	<ul style="list-style-type: none"> ・国立マイセン磁器製作所 見学 ・フォルクスワーゲン ガラスの工場 見学／レクチャー
4	9月11日(水)	ベルリン～ ミュンヘン	<ul style="list-style-type: none"> ・ベルリン市内 視察 (ベルリン～ミュンヘン 移動) ・ミュンヘン市内 視察
5	9月12日(木)	シュトゥットガルト	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンツ博物館 見学 ・フラウンホーファー IPA レクチャー／見学
6	9月13日(金)	ミュンヘン	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーレッツリート地熱発電プロジェクトサイト 見学 ・ミュンヘン工科大学 レクチャー
7	9月14日(土)	ミュンヘン	・ミュンヘン郊外 視察
8	9月15日(日)		
9	9月16日(月)	ミュンヘン～富山	(ミュンヘン～羽田～富山)

【思い出の一コマ】



ドライブリー社にて



在ドイツ日本国大使館にて



フンボルト・フォーラムにて



国立マイセン磁器製作所にて



フォルクスワーゲン ガラスの工場にて



ベンツ博物館にて



フラウンホーファー IPA にて



ゲーレッツリート地熱発電
プロジェクトサイトにて



ミュンヘン工科大学にて

ドイツ経済視察を終えて — 団長 麦野代表幹事 所感 —

当会の海外経済視察は、長年にわたり続く伝統ある行事である。第42回となる今回はドイツ視察ということで、個人的には初めての訪問であり極めて貴重な機会となった。「産業のDXやスタートアップ」「GX」「賑わいのあるまちづくり」をテーマに先進事例を視察して巡ったわけだが、その中で、ドイツと日本との「類似点」と「相違点」それぞれから学び感じたことをお伝えしたい。



類似点としては、なんといっても「歴史（近代史）」がある。ともに敗戦後に復興を遂げ、奇跡的な経済成長を果たし、世界に冠たる国家となったものの、両国とも現在は様々な課題を抱え、経済成長も鈍化している。そうした「経済情勢（昨今の景況感）」も非常に似ている。まずは、ともに主要産業が（特に自動車や化学・製薬等の）製造業である中、ドイツはとりわけ電気自動車（EV）分野において世界に先んじているところ、昨今の中国EVメーカーの台頭が景気低迷の一因ともなっている。併せて、ドイツでは“緑の党”が連立政権に参加し環境先進国として極めて厳格に対応しており、エネルギーシフトを図る中でウクライナ侵攻以降のエネルギー価格高騰のあおりを大きく受けている。現地でそうした情勢について見聞きし、いわゆる“経済発展”と“環境政策”とのバランスが大変難しい状況になっているドイツの現状を痛感した。

また、歴史・経済以外に、「国民性」の類似も挙げたい。昨今はドイツの鉄道ダイヤがかなり乱れていると現地でのブリーフィングでも紹介があり、時間に正確なドイツのイメージが変化しているとの見方もあるが、個人的に現地で出会ったドイツの人々の人柄はと言えば、やはり厳格であり、誠実であり、真面目であり、日本人と非常によく似ていると感じたものである。



その一方で、日独の相違点については、まずはやはり「一極集中ではない」ということがある。ドイツでは、最大都市ベルリン以外にも、次ぐハンブルク、ミュンヘン、ケルンなど、人口100万人超の都市や中規模都市が複数存在しており、それぞれのまちの人々の郷土愛も一際強く感じられた。その一方で、歴史的経緯から移民受入れに寛容なドイツの移民政策のもとで、多数の移民・難民の流入により世情が不安定になっているようにも感じた。

また、「生産性に対する考え方」の違いも大きい。昨年になって名目GDPでドイツが日本を抜き世界第3位になったとされているが、ドイツ約8千万人に対し日本約1.2億人の人口を踏まえると、国民一人当たりGDPでは倍近く差があることになる。これには、お店は日曜・祝日は原則閉店するなど、ドイツの人々がある種の“不便さ”を受け入れていることが背景にあるのだと学んだ。

そして最後に、「教育制度」について。ドイツでは、いわゆる単線型教育とは一線を画し早くから“手に職を付ける”選択ができ、伝統的マイスター制度もある。マイセンの工房見学において、誇りをもって伝統のものづくりに携わり技術を承継する職人を目にし、“ものづくり”や“職人”を尊重する想いを強く感じ、教育の在り方について考えさせられた。

以上が今回の海外経済視察を通じた私の所感である。やはり、実際に海外に足を運び、異文化に触れ、物事を見聞きすることで、得られる気づきや学びが多くある。ぜひ先々もこの海外経済視察は継続して実施していきたい。

パブリックマインドを育み 街を元気に — 10月会員定例会 —

10月会員定例会を10月1日(火)、ホテルニューオータニ高岡で開催。元ラグビー日本代表 畠山健介氏が「スポーツを通じて街や経済をいかに元気にするか」と題して講演を行った。今回は文化スポーツ委員会（武内孝憲委員長）が主管し、会員75名が参加した。

畠山氏は、ラグビーの発祥の国イギリスとアメリカの2つのリーグでプレーしたことがある唯一の日本人。様々な観点でスポーツ文化というものを見てきたご経験をもとに、海外では、「どのようにしてスポーツが地域を、地域がスポーツを互いに支えているのか」ということを「価値」「担い手」「場所」「民財官の連携」「協力」「制度設計と実行力」「エネルギー（内発性）、

パブリックマインド」の7つのキーワードを使い、ご講演いただいた。講演中、畠山氏の発声で何度か全員が立ち上がり、背伸びや休憩を挟みながら進められた。畠山氏は「とやま・こども・みらい予備校」で自然体験を通じてこどもの主体性を育む取組みをされており、「富山という場所の力を使って富山を担う子供たちに種を植えている。これが富山の将来の発展、もしくは衰退を食い止める一手になると信じている」と述べた。「地域での民財官が一体となり、三方よし、よりよいものにして次の世代に託すというパブリックマインドを育むことが、スポーツや街や経済を元気にする一歩目ではないか」と話し、講演を締めくくった。

10月会員定例会(R6. 10. 1)講演録

「スポーツを通じて街や経済をいかに元気にするか」

令和6年10月1日 畠山 健介 氏



（講師プロフィール）

元ラグビー日本代表
ポジションは、スクラム最前列の右プロップ。
1985年生まれ、宮城県気仙沼市出身。小学2年生よりラグビーを始める。中学時代はバスケットボール部に所属。仙台育英高校ラグビー部時代は、3年連続の全国高校選手権大会（花園）出場を果たし、早稲田大学では3度の大学選手権優勝に貢献。大学卒業後、サントリーサンゴリアスに所属し、リーグ制覇、日本選手権制覇などを経験。日本代表として2008年にデビューし、2011年、2015年のラグビーワールドカップに出場。日本代表78試合出場は歴代5位。イギリス、アメリカでプレーした唯一の日本人プレーヤー。2021年から豊田自動織機シャトルズにて1シーズンプレーをし、2022年5月に現役を引退。
現在は、講演活動やラグビー指導、解説、地域の活性化の為の活動や東日本大震災、被災の経験から災害支援活動、啓蒙活動なども行っている。また富山では2023年より、子供たちに富山の魅力を感じてもらい、長きに渡り富山との繋がりを持ってもらうプロジェクト「とやま・こども・みらい予備校」をスタート。
年4回、季節毎に変わる富山の自然を堪能する本プロジェクトは、2年目となる2024年は、さらにパワーアップして、年4回に分けて開催している。

◆ 勝利に限らない普及要因

普及率を16%にすると、物事は一気に広まるというイノベーター理論があります。人口約100万人の富山であれば16万人を常時スポーツ

にコミットさせることができなければ、今回の講演テーマは難しい課題になります。

ラグビーは、盛り上がる契機となった2015年のワールドカップ以来、みこしの上に乗って輝



く状態でした。リーグの観客動員数も、今年は平均6,000人まで上げました。しかし、高校ラグビーのプレーヤーは減少の一途です。他競技が横ばいキープの現状を見ますと、単純に少子高齢化を理由にはできません。

「飲水思源」という言葉があります。自分が今なぜ皆様の前にいるのか、一つ挙げればラグビーのおかげです。そのラグビーは、勝つことで注目されると考えていました。

しかし、2015年11月、秩父宮ラグビー場でのリーグの開幕戦です。好成績のワールドカップ後1か月で熱も冷めやらぬ中、わくわくしながら満員の客席を期待した選手たちは、空席が目立つ光景に愕然としました。

実はチケットに問題があったのです。スポンサーや関係者への配布もあって前売りチケットが全部はけてしまい、当日券を出さない判断がこの事態を引き起こしました。非常に悔しく納得がいかないで理由を求めたのですが、適当にかわされるだけです。その答えを知るために、僕は海外に飛び出しました。

◆ 海外で学んだこと

海外でスポーツと地域がどのように支え合っているのかをまとめてみました。

【価値】 ポストンはアメリカ独立の契機となった舞台で、ヨーロッパの古きよき文化もあり、スポーツが盛んです。ここにレッドソックスの本拠地で全米最古の球場「フェンウェ

イ・パーク」があります。知り合った日本人に、新しいほうがいいのではと問いますと、「違う。数年後には最新でなくなる。最古は変わらず、価値は下がらない」と答えました。こうした見方に、勝利以外は価値がないと考えた僕は驚きました。またボストンは、アメリカ最古の都市公園「ザ・コモン」など、街全体で古きよきものを残す取組をしています。マネタイズする前に、何が価値なのかを見抜く必要があると学びました。

ラグビーの最強集団、ニュージーランド代表・オールブラックスはすごい人気です。しかし、同国ですら、国の人口が倍増する中、ラグビー人口は減少しております。単に勝てば広まる、価値があるとは言えないことを、ここでも示しております。

ラグビーの競技人口は、発祥国・イングランドが世界第1位。2位は最強国・南アフリカ、3位は去年のワールドカップ開催国・フランスで、日本は4位です。実は、5位がマダガスカルで、強さは44位です。植民地支配でフランスからもたらされたラグビーが、格闘を好む国民性に受け入れられ、親しまれているからだそうです。つまり、その国の人たちの価値観に適合することが大事だとマダガスカルの例は示しています。

日本でも、例えば勝てない阪神タイガースや競走馬のハルウララなど、ある種、逆の信頼が価値となって愛される原因になることもありま



KOUENROKU

す。

大事なのは、勝つ枠組みよりも戦い続けられる制度設計です。それがないと、愛される土壌を醸成する機会も得られなくなります。

【担い手】 プレーヤーが減ると、いい選手だけではなく、競技を支える人たちも育たけません。先述のボストンの日本人は、「子どもの時代が大事。原体験が『根っこ』になって大事に育てられることで、その競技につながり続ける」と答えました。

「三つ子の魂百まで」と言いますが、思い返すと、自分が好きになったものは、幼少期の体験がきっかけになったのではないのでしょうか。5歳までに野球場で楽しい体験をした人は、10代で初めての人よりも、大人になって野球場に来る回数が58%増加するデータもあるそうです。

スポーツは、生活必需品ではなく、嗜好品に近いものです。任天堂では、ゲームは生きる上で要らないからこそ手に取って喜んでもらえるように考えながら設計するそうです。スポーツも同じで、単にいい試合をすれば見に来ると考えるのは、競技の持続・発展の妨げになります。そのためにも、子どもたちには特別な経験をさせる機会や場所が必要です。

【場 所】 人の記憶には場所が伴い、場所こそが人々の尊厳をつなぎ止めると言います。競技やエンターテインメントを問わず、経験と場所はセットになります。その場所の力を使うことが非常に大事です。

スポーツの語源はラテン語の「deportare」(デポルターレ)で、「外に運ぶ」「気を紛らわせる」という意味です。自分なりに解釈すると、非日常に行って、わくわくするのがスポーツです。相撲の国技館やフェンウェイ・パークのような異世界の雰囲気。そうした非日常に入る経験は、スポーツの持つ可能性や力も引き出します。

【民財官の連携・協力】 冒頭で、課題達成に富山では16万人のコミットが必要と述べまし



たが、コミュニティクラブが盛んなドイツがその最適なモデルになります。

ドイツのブンデスリーガは、欧州5大サッカーリーグ最大の平均観客動員数を誇ります。それを下支えするのが地域コミュニティクラブ「フェライン」。全国60万クラブのうちスポーツは9万で、会員数は2,400万人(総人口8,400万の29%)。またサッカークラブは2万4,000あり、700万人以上がドイツサッカー連盟に選手登録し、リーグに関わります。

ドイツでは、民財官が連携してスポーツのソフトとハードとムードの結びつけに成功しました。まず、1959年に「第2の道」プランをつくり、トップアスリート育成の「第1の道」に対して、一般人へのスポーツ普及を図ります。続いて、翌年にゴールドプランを立ち上げ、「第2の道」達成のために必要な施設を整備しようと、国全体で当時1兆2,000億円のインフラ投資を行います。これが場所の力につながり、加えて、メディアを使って健康促進運動「トリム運動」キャンペーンを張りました。つまり、スポーツ関係だけではなく、連邦政府や州政府といった行政、そして民間企業の連携が大事になります。

アメリカではチームの引っ越しも多く、例えば大谷君が活躍中のドジャースは、ブルックリンからロサンゼルスに来ました。移転の理由は、スポーツビジネスのハブとなったチームは、雇



用を生み、経済を動かし、法人税もアップと、非常に好影響を及ぼします。また、ニューヨークなどの都市部を除いて、国土の広いアメリカには楽しみがあまりありません。ですから、そこにエンターテインメントの必要性が生じます。

【制度設計と実行力】 スポーツで言うと、日本では選手とチームがウィン・ウインの関係にすぎず、海外のほうが、これに街の発展を加えた「三方よし」という近江商人の考え方をしっかりと持っています。

例えばアメフトは、ホームゲームが年間約10試合です。そこで、マサチューセッツのジレット・スタジアムでは、日程の空きをサッカーに活用。アトランタのメルセデス・ベンツ・スタジアムは、そうした活用に加え、ショッピングモールを入れることで、試合やイベントがなくても集客し、ランニングコストを賄う制度設計をしています。

アメリカのメジャーリーグサッカーは、最初からスタジアムを実績に応じて増減築できるように設計します。日本では箱物を建て、後でランニングコストの計算をしますから、毎年の必要額、それを賄う日数やコンテンツを考えて逆算します。

施設を保つ観点も大事です。オリンピック後、経済危機に陥ったギリシャ、リオでは放置によるスタジアムの荒廃が問題化した一方、ロンドンやシドニーでは跡地開発が成功して地価が上

がる好事例もあります。

実行力に話を移しますと、コロナ期で困難な環境の中、アメリカのスポーツリーグは、それぞれやり方は異なりましたが、シーズンを完遂しました。それは信頼が大切だからです。アメリカでは、実行力や問題解決能力がない人にお金は預けられないと考えます。

ドイツのブンデスリーガにも、成功を図る幾つもの制度設計があります。例えば「50+1」ルールはクラブによる51%以上の株保有で、運営権の移動を防ぎます。借金の制限や選手の厳格な年俸管理、スタジアム所有の奨励、チケット価格の抑制等もそうです。これを守れないクラブにはライセンスが発行されず、ブンデスリーガには参加できません。

【エネルギー(内発性)、パブリックマインド】

欧米の人たちには、国や文化が奪われたりする歴史の中で、パブリックマインド(公共精神)が生成されております。

スポーツは、街が元気で人々にエネルギーがあふれているからするものです。アメリカの大学アメフトで街全体が盛り上がる映像を見ると、単純に自分たちもスポーツで街を盛り上げようと考えがちですが、それには「根っこ」が必要です。

例えば、スポーツ好きな家族がいて、一緒に年間何回かの試合に行きます。すると、根っこが生まれ、郷土愛みたいなものが育まれます。楽しみは少ないが、そこに行くと、同じ物を着た人たち、仲間が同じプレーを見ます。つまり、



KOUENROKU

包摂され、つながることに対して享受があるから、根っこが一緒だから、彼らはスポーツで楽しめるのです。

形や外側だけをまねて日本で広めようとしても、スポーツは根づかないというよりも、必要とされないでしょう。根っこから育てていくことは、とても大事です。

ウィスコンシン州にグリーンベイ・パッカーズというNFL唯一の市民球団があります。株式を発行してはオーナーを募っており、街の11万人が購入しています。株を買ってもオーナーの一人になれるだけで、チケットがもらえる等の特典ありませんが、予約する人が絶えないほどチームには人気があります。

要は「俺たちのチーム」ということです。そうしたパブリックマインドがあるから、さらに向上させようという気概が生まれます。スポーツはそこに根づきます。

◆ スポーツの土壌づくりを

日本でこうしたものが育つ土壌はあるかと言えば、難しいところです。1,530億円をかけて建設された新国立競技場には、年間24億円の維持費が必要です。また、主な会場の建設費とその後の年間収支を見ますと、黒字化が見込めるのは有明アリーナだけです。ハードの面で「三方よし」は、あまり取り入れられていないようです。

一方、街なかの公園はというと、ボールの使用禁止など非日常が限定化され、長野県では昨年、1軒の苦情から公園の閉鎖を行政が決定しました。スポーツが育たないと自治体が言うのは、こうした経緯もあります。

統計を見ても、日本は諸外国に比べてスポーツに関わる時間は短いです。スポーツを行わなかった理由として、時間、年齢、お金等いろいろなものがありますが、平成27年と令和2年を比較しますと、特に場所や施設がないというのが



3～4倍に増えています。仲間に出会える、包摂される空間がないとなれば、スポーツをやる意味はなくなります。この解決の道筋を立てなければ、スポーツで街や経済を元気にすることは難しくなります。

ゴールドウインは現在、南砺市と連携して自然体験施設「プレイヤーパーク」の整備に取り組む、新たな場所を立ち上げようとしています。先述したドイツの事例もそうですが、皆さんであれば民財官が一体となって富山モデルをつくるムードを醸成し、子どもたちがスポーツに関わる場や機会を実現することができると思います。

◆ 変容するスポーツ

さて、ゲームはスポーツだと思われませんか。僕の先ほどの定義では、非日常に行くことがスポーツですから、ゲームも十分にそうなり得ます。eスポーツは、若者を中心に大きなムーブメントとなり、世界では年間10億円を稼ぎ出すプレイヤーもいます。今回の演題を実現する手段の一つとして、アリーナ空間を使い、eスポーツを招致して大会を盛り上げることも考えられます。また、チェスもスポーツとして認めることができます。それはオリンピック種目になれる要項を全て押さえているからです。

つまり、スポーツというのは場所と一緒に、空間をどこまで広げられるか。体を動かすことだけではなく、皆さんがそう思えば、何でもスポーツ化できるのです。



スポーツは、ライフスタイルに合わせて変容します。特に1980年代のアーバナイゼーションで場所が奪われる現象から、街を非日常化するアーバンスポーツが立ち上がっています。街なかで飛び跳ねる「パルクール」もそうです。バスケットでいうと、「スリー・エックス・スリー」。3人対3人、一つのゴールという少ないスペースで完結します。

一方で、丸太を斧やノコギリで切る「ティンバースポーツ」はオセアニアやヨーロッパで人気があります。富山には雄大な立山とコンパクトな都市の両面性がありますので、都市部でアーバンスポーツ、山岳地域でティンバースポーツという在り方も考えられます。

◆ 一歩目はパブリックマインド

レッドソックスとフェンウェイ・パークの親会社がフェンウェイ・スポーツ・グループです。設立の立て役者となったのは、寒さが厳しいニューイングランドでスポーツの振興を図った投資家たちでした。まず合弁会社をつくり、メディアを買収してスポーツに特化した番組をつくれます。そして、400万人に上る視聴者を集める放送局に成長するとともに収益を伸ばし、イギリスの名門サッカーチーム・リバプールのオーナーにもなりました。

経済同友会の皆さんなら、このようなグループを富山でつくれる可能性があると思って提案をいたしました。ラグビーが各人の能力に合わせて15の適切なポジションを与えるように、海

外や東京と比較するのではなく、富山には富山にしかない強みが確実にあると思いますので、その価値を見極め、スポーツを交えてどう発展させるのか。それを未来の担い手にとってもすばらしいものにするのが富山にはできると期待します。

日本一になりたいとよく言われますが、経験した人間から言えば、その時点では遠くから山を見ているにすぎません。スポーツで街や経済を元気にしたいというのも、同様の段階です。実際に取り組みますと、そのやり方が本当に正しいのかどうか分かってなくなります。そうした目線となって迷ったときがその道中と言えます。

我々が未来を思って木を植える。子どもたちは育った木を切って使うわけです。植える前に、根づく土壌がなければ木は育ちませんので、まずその土壌をつくるのが今の我々にできることです。三方よし、よりよいものにして次の世代に託すというパブリックマインドが、スポーツで街や経済を元気にする一歩目ではないでしょうか。今だけ、金だけ、自分だけでは、元気にすることは難しいと思います。

「とやま・こども・みらい予備校」という取組に関わり、富山という場所の力を使って富山を担う子どもたちに種を植えています。これが富山の将来の発展、もしくは衰退を食い止める一手になると信じております。



富山県の未来を築く委員会の在り方を考える

— 第4回企画委員会・第6回委員長連絡会議 —

10月24日(木)、第4回企画委員会(大橋聡司委員長)が、第6回委員長連絡会議と合同で県民会館において開かれ、企画委員6名、6委員会と4小委員会の委員長ら10名のあわせて16名が参加した。



まず、大橋企画委員長から、「委員長連絡会議はこれまで情報共有の場であったが、今回は、経済同友会が富山県の未来を築くべく団体として次年度以降の委員会の在り方をどうすべきかを真剣に考える時期に来ている。現在の委員会の課題や今後の展望等について忌憚なく話していただき、今後の委員会再編の方向性について

考える場にしたい。個人的な見解として、①特定の委員会の委員数が多く運営に支障が生じているのではないかと、②小委員会の位置づけが明確でないのでは、③地方社会の抱える課題への対応が十分でないのでは、等の問題意識をもっており、ヒントをいただきたい。」と挨拶があった。

その後、各委員長から、委員会運営において苦労していること、改善が必要と考えていること、工夫していることなどについて順次発言がなされ、企画委員や他の委員長から質問やコメントが活発に出された。

最後に、今回出された意見を踏まえて、今後、企画委員会で検討し、次年度以降の委員会体制に反映していくと締めくくられ、続いて会場を移し懇親会が持たれた。

カターレ富山 アウェイ戦を応援!

～ 第6回アスリート支援小委員会 ～

9月22日(日・祝)、第6回アスリート支援小委員会(遠藤忠洋委員長)は、金沢ゴーゴーカレースタジアムにおいて、カターレ富山とツェーゲン金沢戦の観戦バスツアーを開催し、委員10名が参加した。

一行は、貸し切りバスに乗り込み金沢に向けて出発。遠藤委員長は「本日は大事な試合になる。アウェイ戦なので皆さん精一杯応援してきましょう」と挨拶した。車内では、午後からの試合観戦に向けて、車内でお弁当を食べた後、金沢名産の五郎島金時味のポッキーを食べ、カターレ富山の

必勝を祈った。サッカー専用スタジアムは、ピッチ内練習中もサポーターの応援がこだまし、試合



前から高揚感で盛り上がっていた。今回は、北陸ダービー戦で負けれない試合。試合は、前半9分に、カターレ今瀬淳也



ラウンジ内にて

選手が先制点を入れ、そのまま前半を折り返し、後半は相手も積極的にゴールを狙ってきたが、チーム全員で走り切り、北陸ダービー戦を制した。

試合終了後、選手たちのスタンド挨拶を見届けた後、帰路についた。途中、高速道路に乗って間もなく事故渋滞に巻き込まれ、約1時間半高速道路上で停車した。想定外のハプニングであったが、勝利のおかげで、その余韻を噛みしめながら参加者同士交流を深めた。



“共創”による持続的な地域創生

— 第5回地域創生委員会（大阪視察） —

8月28日(水)～29日(木)、第5回地域創生委員会（池田治郎委員長）を開催し、委員ら18名が参加。今回は、第4回委員会に続き西日本電信電話(株)（以下、NTT西日本）の全面協力のもと、同社の共創施設の視察やまちづくりの取組みのヒアリング等を目的に、大阪市を訪問した。

8月28日(水)：オープンイノベーション施設 “QUINTBRIDGE”視察



1日目は、NTT西日本が2022年に開設した京橋にあるオープンイノベーション施設「QUINTBRIDGE」を訪問。同施設では、企業・スタートアップ・学生・自治体等の法人会員や幅広い年齢層の個人会員、他の共創組織や地域金融機関等の連携パートナーが、セミナー・ワークショップ・交流会・ピッチ等のプログラムを通して立場にとらわれず交流し、自由に共創

している。

当日開催されていたピッチの見学や共創を促す仕組みであふれる館内の視察ツアーの後、NTT西日本技術革新部の宮永課長より同施設の理念や取組み・共創実績等の説明を受けた一行は、平日の日中にもかかわらず多くの人々が集い交流する共創の場の活気に触れ、“Self-as-We”の世界観のもとで運営される同施設の意義を知り、ウェルビーイング社会実現につながる社会課題解決、未来社会創造のためのオープンイノベーションの必要性を体感した。



8月28日(水)：NTT西日本グループの地域 創生に関する取組みヒアリング

次に、NTT西日本の木上代表取締役副社長より「NTT西日本グループの地域創生に関する取組み」をご説明いただいた。NTT西日本は、地域密着の支店体制のもと、地域課題解決コンサルティング会社「地域創生 Co デザイン研究所」やオープンイノベーション施設「QUINTBRIDGE」等、グループ内で共創の仕組みを敷き、自治体等とも連携して、社会的価値と経済的価値を両立させる持続的な地域創生を促進している。

“自動運転EVバスによる地域課題解決”や“スポーツDXによる地域コミュニティ活性化”、“地域の観光資源を起点とした地域活性化”など多数の事例紹介を受け、共創の好循環がもたらす持続可能な賑わいあるまちづくりについて貴重な知見を得ることができた。



8月28日(水)：京橋駅周辺のまちづくりの 取組みヒアリング

続いて、大阪市計画調整局開発調整部の山崎

課長代理を招き、「京橋駅周辺のまちづくりの取組み」についてヒアリングを実施した。大阪市では、京橋駅周辺地域を大阪・関西の成長の

一翼を担う魅力ある複合的な国際拠点とすべく、まちづくりに関する協議および調整を行うために、“京橋駅周辺地域部会”を大阪城公園周辺地域都市再生緊急整備協議会に設置。国の関係行政機関や大阪市、民間事業者等に加え、学識経験者もアドバイザーとして参加しており、まちの将来像やその実現に向けた官民による取り組み等を検討している。

山崎課長代理から京橋駅周辺の状況と同部会の取り組みについて説明を受けた後、視察団に同行した富山県の吉田公民連携推進監からも富山

県庁周辺エリアで展開されているまちづくりの取り組みについて紹介



を受けた一行は、両者の説明から、起点となる未来ビジョンを描きまちづくりの動きを打ち出しつつ民間開発の機運醸成を図る、公民連携での持続可能なまちづくりの取り組みについて学びを深めた。

8月29日(木)：DX推進・共創ラボ “LINKSPARK”視察

2日目は、NTT西日本が自治体・企業等個別顧客のDXを支援



する拠点として展開する共創ラボ「LINKSPARK」を訪問。同ラボは、コンサルタント、データサイエンティストが常駐してビジネスアイデアの創出から活用技術の具体化・検証・実現までをワンストップでサポートしており、先進的な技術や知見を持つパートナ

ー企業やスタートアップ等とも連携し、地域のグローバルな発展に貢献している。

NTT西日本エンタープライズビジネス営業部の稲垣課長から、共創によりDXを加速させる同ラボの取り組みについて説明を受け、展示デモを体験した一行は、最新技術の数々に驚嘆するとともに、エリア全体最適で地域一体となった発展に寄与するDX推進拠点の意義を学んだ。



8月29日(木)：NTT西日本のAIを活用した まちづくりの取り組みヒアリング



その後は、NTT西日本バリューデザイン部の藤木課長から、都市データ可視化・分析ツール「みんなのまちAI」について説明を受けた。同ソフトウェアは、デジタル上にまちを再現し多種多様なデータを可視化・分析するとともに、都市シミュレーション機能により一定条件下で

の人流変化を予測でき、都市計画や観光促進等の施策検討に役立つまちづくりデータプラットフォームとして活用されている。

“センサーレス”でまちのデジタル化を図る最新技術の仕組みや特長、活用実績等の説明を受けた一行からは、詳細な機能や更なる活用策等について質疑が挙がるなど、強い関心が寄せられた。

2日間にわたる今回の視察は、共創の活気体感や多数の知見獲得ができ、いずれの視察先においても活発な質疑応答・意見交換がなされ、非常に充実した内容となった。

新しい富山の文化を創る人々を訪ねて

— 第8回文化・スポーツ委員会 ～黒部・魚津～ —

9月5日(木)、第8回文化・スポーツ委員会(武内孝憲委員長)は、黒部のSTUDIO HOT、吉田興産(Y & Co.)、魚津のカナタワイナリーを視察するバスツアーを開催し、25名が参加した。

最初の視察先は、黒部市宇奈月にある造形作家 清河北斗氏のアトリエ。到着すると、入口に2体の大型



STUDIO HOTにて

作品「毛女」と「毛男」に出迎えられた。初めに、清河氏から作品の制作過程や使用する道具について説明を受けた。アトリエに飾られた作品は、独特なスタイルで哲学的なテーマを持っており、更に日本の伝統的な美学を取り入れられた視覚的にも感情的にも強いインパクトを持った作品に参加者は感動していた。清河氏は「受注による制作が8割を占めている。それ以外は、自分の作りたいものを作り発表することに重きを置いている」と話した。黒部の豊かな自然の中のアトリエで素晴らしい作品が制作され、その作品を間近で見ることができ貴重な機会となった。

二つ目の訪問地は黒部市のくろべ牧場内にある吉田興産。小高い丘を上がるとヤギ舎の前で吉田朋美氏が



吉田興産にて

迎えてくれた。吉田氏は「父(YKK相談役 吉田忠裕氏)から、ヤギのミルクでチーズを作る職人になってほしいと言われ、半年間考えた末に、チーズ職人になることを決めた」と話した。毎月、すべての山羊の乳質検査をし、乳脂肪が高い個体を厳選して現在80頭飼育している。海からの潮風が当たりミネラル豊富な牧草と山からの雪解け水を与えており、チーズ作りには適した場所であるとイタリアのチーズ協会会長か

らもお墨付きを受けている。吉田氏の作るチーズは、数々の賞を受賞し、国内外から高く評価されている。牧場が見渡せるレセプションルームでヨーグルトを試食した。人々を幸せにする最高のヤギミルクのチーズ作りに今後とも期待したい。

最後の視察先は、魚津市の榎丸八が経営するカナタワイナリー。シックな佇まいのワイナリーでぶどう栽培責任者兼ワイン醸造責任者の土井祐樹氏に説明を伺った。「魚津地域の農業従事者の高齢化や後継者不足が地域課題となっており、魚津の課題をワインづくりで解決したいと思い立ち上げた。魚津は水の循環システムが一つの街で完結し、その循環を一望できる世界的にも稀な地形でぶどう作りに適している。魚介類が豊富で独特の食文化、飲み屋文化があり、地元の食文化にあったワインを作りたい」と話した。地域課題解決と新しい食文化を創る取り組みに興味深く聞いた。説明の後、夕日が沈む景色を眺めながらフレッシュなワインを試飲した。



KANATA WINERYにて

視察終了後、魚津駅前の懇親会会場に移動した。今回は、視察先から材料を調達してもらい、吉田興産(Y & Co.)のチーズ、カナタワイナリーのワイン、河内屋のかまぼこの原料のすり身を使用したパテが振舞われた。魚津の食文化を堪能しながらさらに懇親を深めた。吉田興産の吉田朋美氏も自身のラジオ収録後に駆けつけ、会場は大いに盛り上がった。





一燈照隅

～ スケッチオーデション2024-25開幕～

●スケッチオーデションとは・・・

富山経済同友会（アントレプレナーシップ小委員会）、とやま未来共創チーム、富山ニュービジネス協議会、富山大学が共催する地域人材の育成・発掘を主目的としたビジネスプランコンテスト。

最大の特徴はコンテスト本番ではなく、新たな事業を志す挑戦者とメンターによる「仲間と学びあい支えあう」ことをコンセプトとして、2025年3月16日(日)の決勝大会に向けてビジネスプランの考え方のインプットと、アイデアをブラッシュアップする過程を重視した珍しいイベ

ントであり、今回が5回目の開催。

プログラムの総合プロデューサーは昨年に引き続き富田 欣和氏（神戸大学 客員教授）が務め、講師には過去オリンピックからアントレプレナーといった多彩な講師陣が参加し、決勝大会の審査員には、VCやスタートアップの経営者を迎えている。

参加者とメンターを募集したところ、今回は総勢85名（挑戦者68名、メンター17名）と過去最多の申込みがあった。また、14歳の中学生から60代まで幅広い層が参加している。

■次回以降のスケジュール（1月まで） ※3月のDay 9まで実施

回数	日時	会場
Day 2	2024/11/9 (土) 13-18時	富山大学五福キャンパス 共通教育棟 D21 番教室、D22 番教室
Day 3	2024/11/30 (土) 13-18時	富山大学五福キャンパス 共通教育棟 D21 番教室、D22 番教室
Day 4	2024/12/21 (土) 13-18時	富山大学五福キャンパス 都市デザイン学部総合教育棟 35 講義室、36 講義室
Day 5	2025/1/25 (土) 13-18時	富山大学五福キャンパス 都市デザイン学部総合教育棟 35 講義室、36 講義室

● Day 0（10月6日(日)）

スケッチオーデションへの挑戦を迷っている参加者に向けたプレイベント（Day 0）が富山キラリにて開催され、約40人が参加した。

富山ニュービジネス協議会会長でもある塩井特別顧問より「スケッチオーデションは今回で5回目の開催となり、富山県や富山市、富山大学そしてさまざまな経済団体からイベント継続の意義が理解され協力が得られるようになった。特に、若い起業家精神を高めることの重要性が意識されており、アントレプレナーシップだけでなく、既存の企業にいる人々のアントレプレナーシップ意識も高めることが重要視されている。是非この半年間を学びの機会として欲しい」と開会の挨拶があった後、富山未来共創チームの中村氏よりスケッチオーデションの概要説明が行われた。



塩井特別顧問

続いて、メインプログラムとして特別講師の栗原志功氏が、『泉のごとく発想が湧いてきて、今すぐチャレンジしたくなっちゃうお話』と題し講演を行った。



栗原 志功 氏

栗原氏は、過去の実体験をもとに、感動と行動にタイムラグがあるとクオリティが落ちるため、感動したらすぐに変え、感じた熱量をそのまま体現することをマイルール（深夜のラブレター作戦）していると語った。また、挑戦する際には、他人は背中を押してはくれないので、自身を突き飛ばすくらいの気持ちで挑んで欲しいと参加者に訴えかけた。

講演後は、前回大会でメンターとして参加した田村朋之氏、MIP賞を受賞した石崎美結氏による前回大会参加後の取組について発表が行われた。最後に栗原氏が再度登壇し、参加者に向けエールが送られ Day 0 は終了となった。

● Day 1 [10月19日(土)]

開講初日となるDay 1は富山大学五福キャンパス内で開催された。

初めに、主催団体を代表してアントレプレナーシップ小委員会村上委員長が開会の挨拶を行い、「地域を良くしたい、若い人達の為に何かしたいと考える方々の思いからこのプログラムが提供されている。皆さんで盛り上げていきましょう」と挨拶があった。



村上委員長

続いて富田氏による講義が行われた。まず、富田氏は、日本は他の国と比べ人々の繋がりが希薄であることを指摘し、ビジネスは仲間づくり、すなわちチームビルディングが重要であると訴えた。



富田氏

その体感を目的として、「ヘリウムリング」をアイスブレイクも兼ね皆で実施。10人1組となり、指で支えたフラフープを胸元から地面に降ろすだけの簡単そうな作業だが、実際にやってみると思い通りに下げることが出来ず、参加者は悪戦苦闘した。その後ディスカッションを経て再度挑戦すると、成功するチームも出始め、協力し合うことの重要性を体感した。



ヘリウムリング

続いて特別講義としてViXion(株)代表取締役の南部誠一郎氏が登壇し自身の体験をもとに

「太く出過ぎた杭は打たれない、太く出過ぎるべし」「仲間は自分から集めに行くものでなく、熱意をもって真剣に自分の想いを伝えれば自然と集まってくる」と参加者に語り掛けた。

更に、座右の銘である「一燈照隅」を引用し、一人の行いでもその力が增えることで社会を活性化できると熱く語りかけた。

続いて富田氏が「妄想力」と「構想力」について説明。妄想があって構想が形となる、と妄想の重要性を説いたうえで、妄想力を鍛えるためにはインプットとアウトプットを反復することが重要であるとして、参加者は、グループになり自身の妄想と構想を語り合った。

最後には新田富山県知事と藤井富山市長が参加者の元に駆けつけ、「Sketch Lab」や「T-Startup」といった富山県、富山市が行っている挑戦者を支援する取り組みを紹介し、参加者に対しても熱いエールを送った。



新田知事

5時間にも渡るプログラムであったが、参加者は疲れた顔も見せず笑顔で会場を後にした。「仲間たちとの活動でどのように成長出来るか楽しみ」との声も聞かれるなど、とても有意義で充実したDay 1となった。



藤井市長



9,700人の応援 最後まで攻守で奮闘！

— 「同友会の日」カターレ富山戦 —

10月6日(日)、文化スポーツ委員会（武内孝憲委員長）は地元プロスポーツチームを応援する「同友会の日」を開催し、小中高生7名を含む46名が秋晴れの下富山県総合運動公園陸上競技場でカターレ富山対今治の試合を観戦した。

試合開始前の約20分間、希望した参加者は、ピッチ内で行われた選手のウォーミングアップを見学。選手を間近で見ることができ試合前の緊張感を肌で感じた。



試合前のウォーミングアップを見学

勝てばJ2自動昇格圏内の2位に浮上できる大事な試合。この日は、クラブの「来場者1万人プロジェクト」の一環でオリジナルタオルが先着7千名に配られ、9,700人の来場者でスタンドはチームカラーの青で染まった。

ホームでの試合に勝利し、J2復帰の夢をつ



なぎたいところ。J2昇格を懸けた今治との直接対決とあって激しいプレーの応酬となり、負傷交代が続いた。前半はお互いに堅守を發揮し無得点で折り返した。後半も必勝で臨んだが、激しく競り合い、攻守で力の限り奮闘したが、堅守を崩せず、0対0で試合は終了した。開幕からホーム無敗記録は16に伸ばした。残り7試合、最後までJ2昇格を目指して、さらに奮闘を期待したい。

今回の「同友会の日」は、2月に富山グラウジーズを観戦予定。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

SDGs

4 質の高い教育をみんなに



— 課外授業講師派遣 —

第7回 富山県立雄峰高等学校

令和6年9月12日(木)、遊道義則氏(株)ユニオンランチ取締役社長)が富山県立雄峰高等学校にて3年次98名の生徒を対象に「生きるということ～人生って何だろう～」と題して課外授業を行った。

遊道社長ははじめに、「言葉」の不思議さ・大切さについて触れ、人間は自分の言葉を統御しているつもりで、実は言葉に統御されているのだと説明し、例えば、将来の夢を話すときに「～になれば」や「～になりたい」ではなく、「～になる」と言い切るなど、意図的に言葉を選んで発することが大切であると説いた。

次に、人生で大事なこととして、①人生は選択の連続であり、自分で決めること、②自分の体験を人と分かち合うこと、③自分・他人に対して正直であること、④自分の可能性を自分で否定せず、冒険・挑戦すること、⑤やらない言い訳ばかりしていると、せっかくの機会を逃すことになるので、とにかくやること、⑥全身全霊で取り組み、集中すること、⑦協力すること

で成長し、共に成果を作り、信頼関係を築くこと、⑧責任を取ることの8つを紹介した。無責任な人が増えているが、「怒る」と「叱る」は別物で、叱ってもらうということは「直さなきゃ」と気付きチャンスであり、叱ってくれる人は宝であると述べた。

さらに、働くこと、生きることの意義について、「誰かの役に立つことが働くということであり、誰かが一生懸命働いてくれているからこそ自分も生活することができる。だからこそ自分も頑張ることができる」と語った。

最後に、「自分の人生は誰も何もしてくれない。腹をくくって、自分の人生を生きてほしい。高校生活を楽しんでください」と激励し授業を終えた。



遊道 義則氏

第87回あけぼの会ゴルフコンペ

— 優勝は吉田直樹氏 —

9月23日(月・振休)、呉羽カントリークラブ立山コースにて第87回ゴルフコンペを開催し、90名のあけぼの会会員が参加し、熱戦を繰り広げた。

懇親会は麦野代表幹事の開会挨拶と乾杯の発声で始まり、盛り上がるなか表彰式へと続いた。

優勝の栄冠はネット69.6で吉田直樹氏(日本海ガス株)が手にし、麦野代表幹事から優勝賞品と記念品の富山ガラス工房の花器が贈られた。優勝の弁で吉田氏は、「同友会に入り3年目になるが、こんなに早く優勝することが出来た。今後も積極的に参加していきたい」と述べた。

また、麦野・牧田両代表幹事から代表幹事賞



の提供があり、麦野代表幹事賞は、牧田和樹氏(株MGG)が、牧田代表幹事賞は太田俊也氏(三井物産株)が受賞し、それぞれ富山県ゆかりのガラス作家による作品が贈られた。



その後、長谷川達雄世話人代表からの挨拶があり、牧田代表幹事の閉会挨拶で懇親会は盛会のうちに締めくくられた。

(敬称略)

順位	氏名	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	吉田 直樹	42	43	85	15.4	69.6
準優勝	須田 直樹	51	47	98	28.4	69.6
3位	浦山 哲郎	41	42	83	13.0	70.0
4位	林 政義	48	48	96	26.0	70.0
5位	石坂 兼人	48	45	93	22.5	70.5



企業とキャリアセンターとの連携を図る

～ 富山県産学官交流会 ～

富山県が開催する事業「富山県産学官交流会」を今年度は当会も共催し10月10日～11日に開催した。本事業は県外へ進学した学生の県内企業への就職を支援すべく、県外大学の就職支援担当者と県内企業就職担当者との交流を深めることを目的に実施され、1日目は交流会と懇談会、2日目は大学の担当者向けに企業見学バスツアーを行った。

交流会では、まず富山県労働政策課の赤崎課長の挨拶があり、続いて麦野代表幹事より「学生にとって就職の際に最も頼りになるのは大学の就職担当である。本会が企業と大学の担当者の接点が高まる場となることを期待している」と開会の挨拶があった。

その後、(株)就活ラジオのアドバイザーである辻素樹氏が講師となり、最近の就職活動状況や就活生の思いに関する講演がなされた。講演の最後には、三国志の武将・周瑜の言葉を引用し、人材確保が企業の継続には不可欠

であると参加者に訴えかけた。

講演後には「2025年卒就職活動・採用活動」 「キャリア形成支援における大学・企業の対応について」をテーマにグループディスカッションがなされ、企業と大学の就職担当者と意見交換がなされた。

交流会後には懇談会を実施し、人財活躍委員会より森委員長が開会の挨拶、西田副委員長が乾杯の発声を行い、引き続き参加者一同は懇親を図った。

2日目の企業見学では大学の就職支援担当者が2コースに分かれ会員企業を訪問した。Aコースでは(株)アイパックとTSK(株)、Bコースではサクラパックス(株)と山田工業(株)を視察し、参加者からは「実際に企業の現場を見ることで、雰囲気や業務内容をより詳しく理解できた。学生に勧めたい」といった声が寄せられ、有意義な事業となった。





「富山を知る」を始めて

雄谷 秀次

(株式会社ドコモ CS 北陸 富山支店長)

2023年7月富山に単身赴任、初北陸内異動で新鮮な気持ちで着任しました。1992年4月NTT入社直前に本事業部を希望、7月ドコモ設立、本社と支社（金沢）の連続転勤。飛躍的に伸びた30年、先輩方も自分もゼロから地域販売網・戦略を構築、とてもやりがいのある成長期を経験した。当時上長から「君たちには先見の明がある」と、だが25年後の会で「君たちに有ったのは先見じゃなくて勇気だけだな」、全くその通りだとすとんと落ちた（笑）。また僅かな期間であったがJCで広域地域連携のまちづくりを経験、運よく卒業出来たことは地域社会とのつながりとして貴重な体験となった。

さて、富山着任でまず驚いたことは、社員半数以上が金沢からの通勤、新幹線効果を感じた。富山のイベント・文化や魅力について、社員と会話していくと、名前は知っているが行ったことのないイベント・場所、そして上手く魅力を伝えることが出来ない自分と社員が多くいることに改めて気付いた。金沢のことだと、東京からの観光客にその魅力を知識と経験を持って皆伝えられているのに、この現実を目の当たりに。近場同志のほうが、遠方よりお互いを知らない状況だった。北陸への流動人口を増やす1つに、更にお互いを知ることが大事ではないか、改めて気付かされることに。

人の動きにあわせて、スマホの使われる量も変わるので、現地・現物・現状を知ることは大事であり、何かお客に立てることはないかと。そこで、支店において「富山を知る」というスローガンをあげ、データだけで判断せず、現地に行き利用者がどう使っているのか、どのよ

うに楽しまれているのか、便利に使われているか否かを、社員自ら確認しようをこの4月からみんなで展開、プライベート時でのイベントも含め20か所以上調査、出来ること出来ないこともあります。今後の展開に役立ていきたいですね。

その1つに、例年20万人超の来場者のあるおわら風の盆において、3年ぶり開催、前年で繋がりにくい状況があったとのことで、一部ネットワーク対策やキャッシュレス店舗のフォローで、来場されるお客様が昨年より便利に使っていただき、お祭りを楽しまれたことに一役出来たかと思えます。またこの八尾地区の歴史ある素晴らしい文化・伝統、地域の魅力を知ることが出来たのは大きな財産です。そして3日間を通して体験したことは、地元の街の方、行政の方が一体となって、「おもてなし」をされていることを見て、一緒に一助出来たのではないかと嬉しく思ったことです。

自分の故郷は今年地震と豪雨のあった能登半島、また生まれる前にいた兄の分まで頑張って生きてみよう意識が芽生えたふるさとです。

「生まれたところ（能登）」、「住んでいるところ（富山・金沢）」、「働いているところ（富山）」に「感謝」して、何かお役に立てないか、恩返し出来ないかを、この「富山を知る」で改めて気づきを得たところです。更に深めて行動していきたいと思えます。

※ご縁のある土地や場所、仕事のご縁に感謝！
スマホにも感謝（好きなんですね（笑））！

（次号は三井住友海上火災保険株式会社
富山支店長の井深亜希 様です。）

活動報告

9月1日～10月31日

○幹事会・定例会等

開催日時・場所	内 容	出席者
10月1日(火) 16:30～18:30 ホテルニューオータニ 高岡	10月幹事会・定例会 演題:「スポーツを通じて街や経済をいかに元気にするか」 講師:元ラグビー日本代表 畠山 健介 氏	75名

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
9月5日(木) 14:00～18:00 黒部・魚津	第8回文化・スポーツ 委員会	県内視察 テーマ 「新しい富山の文化を創る人たち」	25名
9月22日(日) 11:45～15:30 金沢ゴーゴーカレー スタジアム	第6回アスリート支援 小委員会	カタール富山 応援バスツアー	10名
10月24日(木) 17:00～18:15 富山県民会館	第4回企画委員会・ 第6回委員長連絡会議 (小委員会含む) 合同 会議	委員会活動の課題と対応について	16名

○課外授業講師派遣

開催日	学 校	対 象	講師
9月12日(木)	富山県立雄峰高等学校	3学年 98名	遊道 義則 氏

○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
9月8日(日) ～16日(月)	第42回海外経済視察	ドイツ	25名
9月23日 (月・振休)	第87回あけぼの会	呉羽カントリー クラブ	90名
10月6日(日)	同友会の日「カタール富山」観戦	富山県総合運動 公園	46名

会員の入退会

(10月幹事会)

1. 最近思うこと
(社業についての抱負や最近の政治・経済・社会情勢等についての考えなど)
2. 生活信条(座右の銘等)
3. 趣味

入会



さか い とも とし
酒 井 智 俊

サカキ産業(株)
代表取締役社長

(紹介者：浅野雅史氏
橋本淳氏)

1. 地域の多様なものづくりや快適な生活に、ガス供給・機械販売等の当社の事業を通じて、役割を果たして行きたいと考えています。
2. 想像と創造(直面する物事に対して、考えること・行動しやりきる)
3. 長風呂・読書・ランニング

交代



いな ば のぶ ゆき
稲 葉 信 行

三谷商事(株)北陸支社
富山支店長

(前：藤崎嘉一氏)

1. 多様性が尊重される社会においても、芯がブレることがない事を基本に、柔軟に社業に取り組んでいきたい。
2. 一期一会一笑
3. スポーツ観戦



かな がわ とも ひさ
金 川 智 久

北陸電気工業(株)
管理本部本部長

(前：下坂立正氏)

1. 今年7月に銀行から転籍し、心機一転新たな気持ちで業務に取り組んでおります。刺激も多くリスクリングにも繋がっています。
2. [雨垂れ石を穿つ]
3. 食べ歩きと日帰り温泉入浴



もり かわ し のぶ
森 川 忍

ANA クラウンプラザ
ホテル富山

総支配人

(前：玉置滋憲氏)

1. 富山の圧巻の自然と豊かな観光資源に触れ、国内外の多くのお客様にその魅力を、ホテルを通じてそして皆様とご一緒に発信していくことをとても楽しみにしております。
2. お客様、従業員なくしてはホテル運営は成り立たない為“人を大切に”を心がけています
3. 山観賞・食べること・料理・スポーツ観戦



若狭秀則
大和証券(株)
富山支店長
(前：倉田聡史氏)

1. お客様の資産価値最大化を合言葉に、富山のお客様のニーズや課題を深く理解し、お客様の状況や経済環境に応じた最善、最適で質の高いソリューションを提供して参ります。
2. 勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし
3. 一人旅

退会

大坪修身 (株)大坪 代表取締役

芝田 聡 富山県信用組合 理事長

大道 正一朗 日本電気(株) 国内スマートシティ営業統括部プロフェッショナル

綿谷 雅代 ワタヤ・オフィス 代表

(令和6年10月1日現在 会員数437名)

哀悼

心からご冥福をお祈り申し上げます。



渡辺守人氏(高岡交通(株)取締役社長)は、令和6年9月18日ご逝去されました。
享年71歳。



鍋嶋範和氏(株)広和 取締役社長)は、令和6年9月30日ご逝去されました。
享年51歳。



幹事 吉岡隆一郎氏(株)文苑堂書店 取締役会長)は、令和6年10月25日ご逝去されました。
享年81歳。

慶事のお知らせ

おめでとうございます

令和6年秋の褒章において、当会会員が晴れの栄誉を受けられました。
心からお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。

藍綬褒章



桶屋 泰三 氏
桶屋税理士事務所 所長
当会副代表幹事

今後の予定

開催日	対象	行事	場所
12月3日(火)	全会員	海外経済視察報告会・年末定例会 (教育問題委員会主管)・懇親会 ゲスト：室井 滋 氏、鍋田 恭子 氏 「みんなで愉快地に今年を振り返ろう」	ANA クラウンプラザ ホテル富山
1月15日(水)	幹事以上	新年幹事会・富山県知事との昼食会	富山電気ビルディング
1月27日(月)	全会員	1月会員定例会(地域創生委員会主管) 講師：福島国際研究教育機構 理事長 山崎 光悦 氏 演題：未定	オークスカナルパーク ホテル富山
2月16日(日)	全会員	同友会の日「富山グラウジーズ」	富山市総合体育館
3月5日(水)	幹事以上	3月幹事会	オークスカナルパーク ホテル富山
3月5日(水)	全会員	3月会員定例会(人材活躍委員会主管) 講師：日本アイ・ビー・エム(株) 代表取締役社長 執行役員 山口 明夫 氏 演題：未定	オークスカナルパーク ホテル富山
4月9日(水)	幹事以上	4月幹事会	オークスカナルパーク ホテル富山
4月17日(木) ~18日(金)	全会員	第37回全国経済同友会セミナー(広島経済同友会主管)	広島市内
4月24日(木)	全会員	2025年度定時総会・懇親会	ANA クラウンプラザ ホテル富山

〔表紙写真〕

ベルリンのブランデンブルク門にて

第42回海外経済視察ではドイツ連邦共和国を訪問した。写真は、国際都市として戦後復興を遂げたベルリン市内視察における一枚。

東西ベルリン統一のシンボルとされている「ブランデンブルク門」を背にした一行にどこか違和感が。お気付きでしょうか？

発行所

富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階

電話 (076) 444-0660

FAX (076) 444-0661

e-mail: doyukai@po.hitwave.or.jp

https://www.doyukai.org/



大学卒業祝いに友人と



飛んで飛んで飛んで...♪

株式会社エフテック 代表取締役社長

福島鉄雄

わが青春を振り返ってみると大学生時代はアルバイト三昧だったことを改めて思い起こしました。当時の私の体重は90kg。友達と個人経営の焼肉食べ放題のお店に行って食べていたら、年老いた店主が『もう勘弁してください』と頭を下げられたり、回るお寿司の1時間食べ放題では44皿（88貫）にゆで卵、バナナ、牛丼屋では大盛り3杯（お金節約のため3杯目はご飯と生卵）こんな話はキリがありません。仕送りもしてもらっていましたが、食費を稼ぐのにかくいろんなバイトをしました。ドーナツ店で深夜のベーカリーやビルの屋上の水槽タンクの設置工事等。でも1番印象に残っているのが旅行会社の添乗員。今は資格も必要な業務のはずですが、当時は添乗員の多くは学生のアルバイトでした。ネームプレートや名刺も持っていました。年齢を5つ多めに27歳として（笑）。月に一度、本社に集まり添乗員の割り振りをする会議がありました。自分の都合のいい期間に北海道や沖縄に添乗員として行くアルバイトでした。

私にとって3食付きが大きな魅力でした。しかし、後に添乗員のアルバイトの大変さに気づくのでした。当時の添乗員の業務は、例えば羽田発の北海道旅行はフライト1時間半前に一度受付を行い、30分後にもう一度集合してもらいチケットを渡し、それぞれ搭乗口へ入ってもらうというものでした。ある時、受付を済ませたおじいさんが集合時間になってもチケットを取り戻って来ない。空港を探し回りましたがいない。その間に私の乗る北海道便が飛んで行ってしまったのです。すぐに旅行会社の札幌支店に空港への迎えをお願いし、私は次の便で北海道へ。夜になってなんとか宿に着くと居ないはずのあのおじいさんがご飯を食べていて、周りもクスクス笑っていて…。もう紙面がなくなるのでなぜこうなったのかは又お会いした時にお話しできればと思います。この添乗員3年間の経験があらゆるトラブルの対処法や人とのお付き合いの原点を教えてもらった意義あるものになりました。